

所 感

先年、過剰な肝臓治療薬の副作用が気になり、一見非合理と思える31日間の断食療法に挑戦した。これは物理療法併用の東洋医療の一つであるが、終了時の体調は誠に快適であった。直前と4ヶ月後の検診に差はなかったが、その間医薬を全く服用していないので意義は深い。

一方、先頃、血液中の蛋白質抑制剤を服用していたらヘルペスにかかった。そこで、入院して、高価な抗体を点滴し、更に、塗布剤・挿入剤および4種の内服薬を使用したら、激痛は止まり、3週間で治癒、西洋医療は卓効を示した。

上例の、東洋医療は基礎体質創製の予防併存中心であり、西洋医療は原因排除の対症療法重点である。両者は経済性・発展性・欲望充実等で複雑な得失を有するが、現実是对症偏重である。その両者の実態は共に完全でないが、相互の補完により真の医療体制への飛躍的發展が期待されるので、その合理的融和が望まれる。

除草における除草剤の価値は極めて高い。しかし、除草剤が進歩した今日、(特に水田)除草は除草剤以外にないと言う観念を持つことは、前述の対症偏重同様適切ではあるまい。今後の除草には、既成概念に捉われない栽培法、超軽量機械化・品種・雑草種子対策等非薬剤抑草技術をも究明し、それを基調とし、その上に安全・少量の除草剤散布が理想的であり、この抑草技術と除草剤の調和が必要と思う。なお、週休2日制・兼業増加の車社会において、農作業を軽労働化して、これを運動不足解消の一手段として活用する発想は時代錯誤であろうか。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 井上利志栄〕
九州支部長

目 次 (第19巻第5号)

ブラジルにおける柑橘産業の現状……………2

＜果樹試験場興津支場長 広瀬和栄＞

1. カンキツの種類……………3
2. カンキツの生産と価格……………4
3. 他の果樹類……………6

埼玉県におけるニンジン栽培と雑草防除……………7

＜埼玉園試鶴ヶ島洪積畑支場 佐藤光興＞

1. 特産ニンジン導入の経緯と変遷……………7
2. ニンジン栽培の現況……………7
3. 主な作型と品種……………8
4. 作型でみる作業体系と栽培法のあらまし……………9
5. 作付体系による栽培改善……………10
6. 作付体系でみる雑草発生の状況……………11
7. 雑草防除の実態……………11
8. 今後の問題……………12

世界の農耕地雑草とその調査研究(7)……………13

＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞

ナス科概説……………13

昭和59年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………20

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

- 昭和59年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定結果一覧……………20